

令和4年度 第2回草津市総合教育会議 会議録（要旨）

■日時

令和5年3月27日（月）午前10時から午前11時55分まで

■場所

草津市役所8階 大会議室

■次第

1. 開会

2. 議題

(1) 草津市の幼保小接続の取組について

～子どもの生きる力を育む幼保小接続～

(2) 近江湖南のサンヤレ踊りのユネスコ無形文化遺産登録と今後の継承について

3. 閉会

■出席委員

小辻委員、我孫子委員、森委員

■出席理事者

橋川市長、藤田教育長

■事務局出席者

総合政策部 木村部長、岸本副部長（総括）

企画調整課 森下課長

子ども未来部 金森部長、黒川副部長（総括）、前田副部長（幼児担当）

幼児課 山際課長、東郷参事、柳原副参事

教育委員会事務局 増田部長、菊池理事（学校教育担当）、田中副部長（総括）、二井副部長（図書館担当）兼図書館長、上原副部長（学校教育担当）兼学校教育課長

教育総務課 吉田課長、永田係長

歴史文化財課 岩間課長

学校教育課 寺西専門員

1. 開会

- 開会に当たり、市長より挨拶

2. 議題

- (1) 草津市の幼保小接続の取組について
～子どもの生きる力を育む幼保小接続～

【事務局説明】

(資料1について説明)

【質疑応答・意見交換】

●市長

カリキュラムについて不十分なところ、問題点を今何か考えているのか教えてほしい。

- ・子ども未来部前田副部長

カリキュラムを作成した時は、5歳児の10月ぐらいから1年生の7月ぐらいを接続期と定めて進めているが、国では5歳児から1年生の2年間となっているので、草津市では少し足りないということで今後は拡大していきたいと考えている。

●市長

民間の幼稚園、こども園もカリキュラムの取組が進んでいるのか教えてほしい。

- ・子ども未来部前田副部長

民間の保育施設にも提供していて、カリキュラムを活用していただく様に取組をお願いしている。

●市長

スタートカリキュラムは全部の小学校で取組が進んでいるのか、進んでいるならさらなる何か改善をしていかなければならないと考えているのか教えてほしい。

- ・学校教育課上原課長

スタートカリキュラムは取り組んでいる。

スタートカリキュラムはあるものの、しっかりと継承が出来ていないのが課題。

カリキュラムの実施によって変わったところなど、情報共有し、効果検証をしていかなければならない。

●小辻委員

幼保小接続のほかにも続く小中接続があると思うが、中学校にも入っていただく事は考えているのか教えてほしい。

- ・学校教育課上原課長

現段階では幼保小接続をしており、ある一定の成果が出たら、就学前の9年間と中学校での3年間の12年間を見通した教育保育を充実させるためにも中学校に入っただけのことを今後考えている。

●我孫子委員

小中学校の交流が、研修会などをきっかけに進むことは良いことと思う。先生方の研修会や、子どもたちの学校同士の関わりをどのくらい検討されているのかを教えてください。

・学校教育課上原課長

市全体での研修会を夏の研修会も含めて合計3回程度、現在予定している。

子どもたち同士の参観等というのは、この事業では予定していないが、来年度、小中学校で地域公開日、学習参観を含めて、保護者、地域の方に参加いただける公開日を予定しており、それにあわせて先生方にも見ていただけたらと思っている。

●森委員

中学校区の民間園も含めてこのような取組ができればすごいことだと思う。

課題は多いと思うが、管理職同士が話し合っただけで進めるという組織体制づくりがないと進んでいけないところもあるので、できたらいいなと感じた。

●市長

小学校側からもっとやって欲しいと求めるものがあるのか、逆に幼保側から小学校にやって欲しいことや、繋がりを作って欲しいとか課題認識としてあるのなら教えてください。

・学校教育課上原課長

遊びが中心の就学前教育が小学校になっていきなり学習になるので、それが学級崩壊とか集団教育の機能を果たせないという事で小1プロブレムが問題になった。幼児期の適切な時期に適切な刺激を与えていただいて、冰山によく例えられるように、上に見えている部分は小学校の教育、子どもの姿、冰山の下に隠れている大きな土台の部分をしっかりと就学前で育てていただくのがいいのかなと小学校としては思う。

・子ども未来部前田副部長

就学前からですが、子どもの内発的な意欲とかやりたい気持ちが育つようにやっていかないうふうな就学前でも思っている。小学校にお願いしたいのは就学前での学びがしっかりと土台にあって、小学校に繋いでいっているということと、小学校の1年生は発達的にもまだまだもう少し幼児期が残っているので、子どもが楽しんで話を聞けるような環境を整えつつ授業を進めてもらいたい。お互いの授業とか保育の改善が接続期は大事ですので、その辺の抵抗がなくなると小1プロブレムにもダイレクトに効いてくると思う。

●市長

今も、小1プロブレムというのはあるのか教えてほしい。

・学校教育課上原課長

接続期プログラムが出来たので、減ってきているという現状である。

●市長

モデル地域の状況を把握できているのか教えてほしい。

・子ども未来部前田副部長

モデル地域で研究会をされたが、草津市の課題と同じように交流の機会が少ないのが課題として挙げられていた。

●小辻委員

体育とか音楽などは非常に繋がりやすいが、算数は繋がりにくいので算数などの接続も検討していただきたい。

子どもたちが小学校と幼稚園児、保育園児が互いに関われる場を増やしていただけるとよりいいのではないかと思う。

●我孫子委員

就学前の子供たちが小学校という新しい環境に行くので、より成長して貰うのに接続の強化が重要だというのは感じた。

年上の子が幼い子を見る時にはこの様にしてあげると良いだろうなとか、幼い子は年上のお兄さん・お姉さんを見てこうなりたいと感じたり、そこで上下関係などを知ったりとかあると思う。コロナなどで関わりとかが少なくなってきているので、そういう機会を増やして行ってほしい。

●森委員

接続のいろいろな取組を通して横の繋がりもでき、協力し合いながら小学校と今以上に繋がると、子どもたちの小学校への意欲とか楽しみが増えていくと思う。

●市長

保護者や地域の関わりをこの幼保小接続についても巻き込んで進めてほしい。

皆子どもが育って行く事を願っている中で、こども園や小学校も保護者や地域向けに情報発信をされているが、それに対して保護者や地域の方々の意見や願いを把握するなりして展開してほしい。

●教育長

地域協働合校を続けてきた中で、地域での受け皿というかそのような機会を持っていた

くのも大事だと思う。小学校、幼稚園の区分けをつけるのではなく協働し合いながら今後も取り組んでいくのが良いとお話を聞かせていただいて思った。

接続期の研究会の情報を共有して、情報共有の後の改善、P D C Aサイクルにまだ乗っかっていないと思う。まずは中学校区の中で継続的な振り返りが重要になると思うので、そのような取組をお願いしたいと思っている。

(2) 近江湖南のサンヤレ踊りのユネスコ無形文化遺産登録との今後の継承について

【事務局説明】

(資料2について説明)

【質疑応答・意見交換】

●市長

ユネスコ無形文化遺産登録されたことで後世に伝えていかなければならないと思うが、指導者の高齢化とか子どもたちを参加させるために地域でされていることや、全国での成功事例を把握しているのであれば教えてほしい。

市民への啓発や学校での教育とか観光の活用について、すでにされている事、今後新たに展開していく事があれば教えてほしい。

・歴史文化財課岩間課長

全国的には子どもがいないという事例がたくさんあり、廃村に追われる所もある。本市の場合はどのように人に出てもらえるのが重要で、町内の雰囲気を変えて参加して貰った成功事例がある。また閉鎖的な民族組織を変えて外部からの参加を得られておられる事例が他市にはある。

学校では出前授業が行われたり、学校向けに地域の行事に参加するようにというような事を発信している。更に副読本を通して地域の伝承の学習時間を作っていたりしている。本市で立命館大学の学生に手伝っていただきたいというようなお話をしたときに、地域の方でないのと仰る一方で、他の方に入っただけだと活性化になるのでメインの部分ではないが、側面からお手伝いいただきたいという御意見をいただいているので、そういった方向も展開していくべきと考えている。

●市長

出前授業はいつ頃からやられているのか、それによって子どもの参加者は増えたのか、確保がしやすくなったのか何か成果があったのかを教えてほしい。

・歴史文化財課岩間課長

年数とか人数の効果を直接的に数字では把握できていないが、ユネスコの指定になったものを学ぼうという学校が増えてきている。サンヤレ以外にも渋川の花踊りを伝承するため

にまちづくり協議会との連携で存続のための啓発活動で、実際に子どもが参加したり、男性ばかりではなく女性を取り入れる事例も出てきて間接的な成果が出てきている。

●小辻委員

サンヤレ踊りのある地域で中学校の部活としてされたりとか検討されたらどうか。

・歴史文化財課岩間課長

そういった盛り上がりが出てきたら大変ありがたいが、現状を考えると他の部活動が盛んに行われているので、可能であれば啓発の機会を設けさせていただければありがたいと思う。

●小辻委員

出演者が今後地域によっては減っていくことも十分に考えられると思うが、その時は幕引きをしたいのか、それとも継続していきたいと地域の方々は考えておられるのかどちらか。

・歴史文化財課岩間課長

今のところは閉鎖的ということではないが、自分たちで頑張ると考えておられる地域が多いというのが実態である。

●森委員

今現在は、地域それぞれで後継者や役者のことを考えて、地域で存続するために連携して会議を持ったりなどはないということか。

・歴史文化財課岩間課長

保存会の連合会があり、意見を求めあったりしていただいている場合は、一定できている。

●我孫子委員

行政にサンヤレ踊りの継承のために、各地域から意見とかお願い等があるか。

・歴史文化財課岩間課長

他の団体からや地区以外の方が後継者になるのは難しいであろうという御意見がある一方で、伝統衣装に多額のクリーニングをかけながら継承されているので、そういったところを市に補助をしてほしいと御要望等はある。そのような側面からの補助はさせていただいている。また、後継者不足に対しても、間接的な援助、学生さんの援助などは、歓迎する団体も多い。

●教育長

地域では危機的な状況ではなく、なかなか子どもの参加者がいないという事が一番の課題だということではないか。

・歴史文化財課岩間課長

本市では子どもが全然いないというわけではない。出演者のために指導者が交渉に御苦勞されているが、最終的な危機というところまで本市はしていない。

●教育長

保存に対しての記録、書物であったりとか映像も一つだが、そういうところで指導者の育成をされている事例はないか。

・歴史文化財課岩間課長

平成17年に詳細な報告書と映像を作っている。ユーチューブで映像を見ていただけるようにしたりと、そういった方面での御要望にお答えしている状況である。

●教育長

観光等との連携などがコロナで一旦中止になっていたが、今年の予定は既にスタートしているのか。

・歴史文化財課岩間課長

今年度は3年ぶりに実施される予定である。ユネスコ登録を機に宿場まつりで啓発をしていただいたり、観光協会でバスツアーに見学を組込むというような計画をしている。

●我孫子委員

ユネスコ無形文化遺産登録されたと聞いて、草津のサンヤレ踊りがいろいろな地域であることを知り、地域の特色があるのを知った。

これだけ歴史のあるものが続いてきているので、これからも続けていってほしい。

宿場まつりや学校などでの啓発により、されている方の誇りにつながるとともに、参加者や見学者が増えていくと思うので、続けていってほしい。

●森委員

7つの地域が連携して出来ることを増やしてほしい。

文化遺産登録を機に今まで知らなかった方にも、草津で歴史的なものがあると知るきっかけになったので、そのような働きかけを今まで以上にやってほしい。

●小辻委員

サンヤレ踊りの時は、できるだけ学校行事が重ならないようにして踊りを見に行くような機運を高めてほしい。観光資源としても重要だが、学生のサポートに関しても、地域の方々がこうして欲しいという事をくみ取って無理のない範囲で声掛けをしてほしい。まずは地域の方々の思いを大事にして、自分たちの思いで続けていくのが大事である。

●教育長

やっている者にとって第三者から評価されることは非常にありがたく、やりがいに繋がる。まずは、行政から盛り上げていかないといけない。

そして、地域の連携、交流をして役員同士だけではなく演者同士など、より多くの交流をしていただきたい。外からの支援については、ニーズとのマッチングが大事である。

引き続き、地域の方々とともに勉強をしながら進めていきたい。

●市長

ユネスコ登録の機会にアピールすることで、観光客や市民に見てもらおう事で地域のモチベーションが高まり、参加意欲も高まることに繋がる。

保存会は町単位だが、まちづくり協議会と連携とか関わりを視野に入れると、更に課題解決に繋がるのではないか。

伝統を受継がれてきたことを大切にしないといけないので、緩やかな形でまた更に広げていくことも検討してほしい。

3. 閉会

●閉会に当たり、市長より挨拶